

石川県七尾美術館だより

平成14年4月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第29号(春号)



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

「20世紀巨匠の5大連作版画展」より
ミゼレーレ

【神よ、われを憐れみたまえ、
あなたのおおいなる慈によって】

ジュールジュ・ルオー

1923年 財団法人清春白樺美術館

©ADAGP, Paris & JVACS, Tokyo, 2002



展覧会紹介

平成十四年四月二十六日(金)～

六月三十日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

「20世紀巨匠の5大連作版画展」

ピカソ・ルオー・シャガール・ミロ・デュフィ

四月二十六日(金)～六月二日(日)

〔会期中無休〕

第一・第二・第三展示室

本展は、二十世紀を代表する芸術家五人の優れた連作版画を選抜し、競演形式で展覧するものです。これら全作品を、一堂に鑑賞できる機会はそうございません。

また、今回は版画作品百五十六点に、ピカソとシャガールのポスター二十点、シャガールがバレエ曲「ダフニスとクロエ」の舞台美術と衣装を担当した際、特別にシャガールの仕事を撮影する許可を得た写真家・イジスの関連作品六点も特別陳列します。

五大巨匠が表現する、個性豊かな版画の世界を是非お楽しみください。

パブロ・ピカソ「サルタンバンク(旅芸人)」

一九〇四年ノ一九一三年刊行

エッチング・ドライポイントなど

全十五点 限定二百五十部刷り

サルタンバンクとは、サーカスなどに属さず町から町へと転々しながら街角で軽業を見せて生活する最下層の芸人たちのことで、ピカソはこのサルタンバンクやサーカスの人々に心惹かれ、度々描きました。

これは、ピカソがパリにおいて最初に試みた銅版画です。繊細な描線を積み重ねて微妙な濃淡を作り出し、青の時代の哀愁を醸し出しています。



サルタンバンク【女の顔】1905年
パブロ・ピカソ 新潟県六日町所蔵
©Succession Picasso, Paris & BCF, Tokyo, 2002



ダフニスとクロエ【扉絵】
1957年～1960年
マルク・シャガール 東京アカデミー所蔵
©ADAGP, Paris & BCF, Tokyo, 2002

ジョルジュ・ルオー「ミゼレレ」

一九一七～一九二七年作ノ一九四八年刊行

アクアティント・ドライポイント

全五十八点 限定四百二十五部刷り

キリストの生涯、人間の苦悩と希望をモノクローム作品五十八点に描き出し、普遍的な宗教観にまで高めたルオーの崇高な代表作です。

ルオーにとつての白と黒は、明と暗であり、光と闇、善と悪といったものを示唆するもので、五十八点の中に十五回登場するキリストは、人間の苦悩の中の光りそのものなのです。

マルク・シャガール「ダフニスとクロエ」

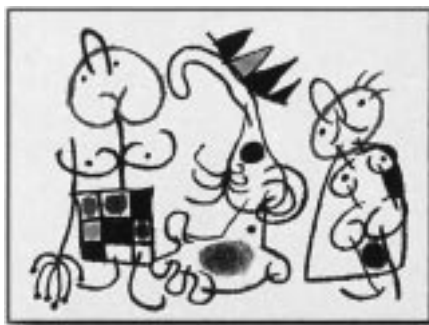
一九五七～一九六〇ノ一九六一年刊行

カラーリトグラフ

全四十二点 限定二百七十部刷り

「ダフニスとクロエ」は、一三世紀の作家・ロンゴスが書いたレスボス島の牧歌的恋愛物語で、山羊飼いの少年・ダフニスと羊飼いの少女・クロエが、エロスの神やニンフたちの加護を受け、様々な障害を乗り越え真の愛に包まれていくお話です。

シャガールが、構想から八年の歳月を費やし、独自の軽妙なフォルムと華麗な色彩で夢幻的に表現した名作は、見るものに爽やかな風を運んでくれます。



バレアレス諸島のユビュ王 1971年
ジョアン・ミロ 株式会社大庄所蔵
©Succession Miro/ADAGP, Paris & JVACS, Tokyo, 2002

ジョアン・ミロ「バレアレス諸島のユビュ王」

一九七一年

カラーリトグラフ

全三十一点 限定百二十部刷り

ミロは、世紀末フランスの前衛詩人、劇作家のアルフレッド・ジャリの「ユビュ王」に触発され、この「ユビュ王」シリーズのリトグラフを制作しました。

黒と赤を中心に、自由な線描で描かれた世界は、ミロの出身地であるスペインのイメージと重なってきます。

ラウル・デュフィ「電気の精」

一九五三年
カラーリトグラフ

全十点

デュフィは、一九三七年のパリ万博博覧会のリュミエール（光）館内に、高さ十メートル、幅六十メートルの巨大な壁画「電気の精」を制作し、注目を集めました。これは、その油彩による壁画を十分の一に縮小した版画作品です。

オリンポスの神々から始まり、電気・科学の歴史が軽妙な線と透明感のある色彩によって展開していきます。また、画面下部には、その時代に活躍した哲学者や科学者・詩人など百十人も描かれており、子どもたちも楽しめる作品です。



電気の精 1953年
ラウル・デュフィ 個人所蔵
©ADAGP, Paris & JVACS,
Tokyo, 2002

観覧料

	一般	個人	団体
大高生	700円	350円	600円
			300円

中学生以下無料・団体は二十名以上です。

「第58回現代美術展 七尾展」

六月七日(金)～三十日(日)

第一・第二・第三展示室

「現代美術展」は石川県下で最大規模を誇る公募展です。その歴史も古く、戦後間もない昭和二十年十月に「美術文化の向上による新日本建設への寄与」をスローガンに記念すべき第一回展が開催されました。以後、毎年継続され今回で五十八回目となります。

七尾展については、昭和二十一年六月の第二回展が開催され、その後平成七年四月の当美術館開館以後は能登地方関連作家作品を中心に、「現代美術展」の地方展という形で毎年開催されています。

当展は県内在住の重要無形文化財保持者（人間国宝）を筆頭とする現代の美術界を牽引する作家作品をはじめ、これから更なる制作活動をしていこうという新進気鋭の作家まで、幅広い層から千点にも及ぶ作品が出品・応募されます。そして、入選率五〇パーセントという厳しい審査を経て入選作品が選ばれています。

これだけの作品を一堂に観賞できる機会は貴重であり、石川県における現代美術の流れを展観する絶好の機会といえるでしょう。

七尾展では「現代美術展」入選作品の中から、能登地区（押水町以北）在住者の作品、最高賞・次賞・委嘱賞受賞作品、能登地区在住および出身委嘱作家作品、財団法人石川県美術文化協会委員の作品を選抜、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門で約二百点を展示予定です。

主催（予定）

財団法人七尾美術館
財団法人石川県美術文化協会
北國新聞社・テレビ金沢・
ラジオななお

後援（予定）

能登地区各市町村教育委員会

観覧料

	一般	個人	団体
大高生	500円	350円	400円
			300円

中学生以下無料・団体は二十名以上です。



「第57回現代美術展 七尾展」展示室風景

アートホール催し案内

ファミリーコンサート

四月十四日(日)
開場 十二時三十分
開演 午後一時

歌あそびの中の、母と子のほほえましい語らい、仲良く連弾する和やかさ、曲の中にとけこもつと練習する目の輝き、それぞれ元気いっぱいです。また、今年の試みとして、ピアノ・大正琴・三味線・尺八・詩吟との合同演奏を通して、日本音楽のもつ味わいを楽しみ、二才から八十四才の幅広い世代の中で、音楽を生活の中に生かしたいものと思っています。

入場料 無料

主催 ひびき会・琴絵会・洋三会

後援 北國新聞社・ラジオななほ

連絡先 川崎幸子

☎〇七六七 五一 四六五七

ピアノ・エレクトーン発表会

五月二十六日(日)
開場 午後二時三十分
開演 午後三時

片岡美由紀、勝尾美智子、平野千恵、前田牧子、宮川典子、谷内仁美門下生によるエレクトーンとピアノの発表会です。幼児から大人まで、幅広いジャンルのプログラムです。

入場料 無料

主催 Cresco(クレッシェンド・クラブ)

後援 ミヤコ音楽堂

連絡先 平野千恵

☎〇七六七 六二 二〇六三

柿島ピアノ教室発表会

六月二日(日)
開場 午後一時三十分
開演 午後二時

日頃の練習の成果を聴いてください！緊張はしているでしょうが、普段の元気な姿を本番でもお見せできるような発表会にしたいです。

入場料 無料

主催 柿島ピアノ教室

連絡先 柿島秀吉

☎〇七六七 六二 二九一四

二十三回等伯会定期総会

四月十三日(土)
開会 午後一時

平成十四年度の事業計画・予算などを話し合います。また、会場にて今年度の等伯会会員を受付いたします(年会費三千元)。会員の方には長谷川等伯色紙(今年度は「牧馬図屏風」)を差し上げます。

主催 等伯会

後援 七尾市・七尾市教育委員会

連絡先 等伯会 事務局(七尾美術館内)

☎〇七六七 五三 一五〇〇

当館主催の催し

映画上映会 【入場無料】

アートホール

四月十三日(土)
「日本の書」(二十分)

四月二十七日(土)・五月十一日(土)・二十五日(土)

「彫る 棟方志巧の世界」(四十分)

または「東海道五十三次」(三十分)

ワークショップ情報

「オリジナルカードを作ろうよ!」

内容 いろいろな色のカーボン紙を使って自分だけのオリジナル・ポストカードを作ります。できたカードは、持って帰って友達に郵便で出したり、持って帰らない場合は休憩コーナーなどに展示します。

日時 「二十世紀巨匠の五大連作版画展」

会期中随時(午前九時〜午後五時)

会場 一階休憩コーナー

参加費 無料 高校生以上は観覧券が必要です。

「子どもアーティスト誕生II」

内容 作家の先生と楽しくふれあいながら、木彫や木工制作を体験してみませんか!

夏休みの宿題もこれでOK!

日時 七月二十三日(火)〜二十八日(日)

の予定

会場 美術館前 芸術とやすらぎの広場

講師 工芸家・瀧川千春 先生

参加費 無料 事前に申し込みが必要です。

対象 小学校高学年

定員 二十名

平成十二年 新収蔵品紹介

平成十三年に、新しく当美術館所蔵品になつた作品を紹介します。

・日本画『静夜芳香』 水道秋聖

平成元年（一九八九）制作
第42回創造展出品

・日本画『朔風能登』 水道秋聖

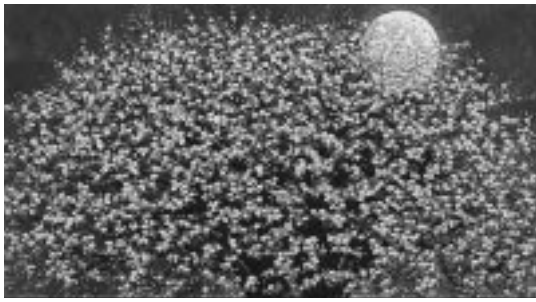
平成二年（一九九〇）制作
第43回創造展出品

水道久子氏より寄贈

・油彩画『春の塔』 成之坊良輔

平成十二年（二〇〇〇）制作
第86回光風会展出品

成之坊良輔氏より寄贈



「静夜芳香」水道秋聖



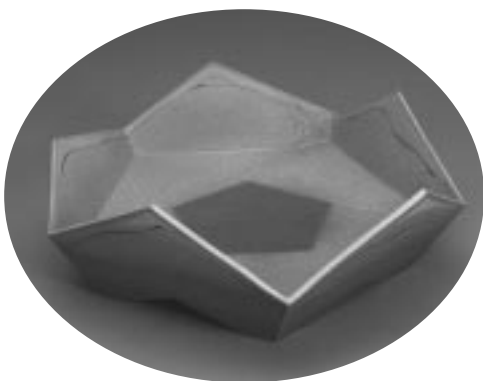
「朔風能登」水道秋聖



「生きる湿地」角 昭三



「見透せぬ窓」前田さなみ



「風車」向瀬孝之

・油彩画『見透せぬ窓』 前田さなみ
平成十二年（二〇〇〇）制作
第69回独立展出品
前田さなみ氏より寄贈

・油彩画『生きる湿地』 角 昭三
平成十二年（二〇〇〇）制作
第55回二紀展出品
角 昭三氏より寄贈

・彫刻『とり』 中山 実
平成十一年（一九九九）制作
第31回日展出品
中山 実氏より寄贈

・陶磁器『風車』 向瀬孝之
平成四年（一九九二）制作
第12回日本新工芸展出品
向瀬孝之氏より寄贈



「春の塔」成之坊良輔



「とり」中山 実

新収蔵品につきましては、今後「所蔵品展」などで順次紹介していきたいと思っております。なお、具体的な展示期間などに関しましては、美術館までお問い合わせください。

平成十三年六月

スイスで「等伯展」開催される！

去る、平成十三年六月十六日から同七月二十九日まで、スイス連邦・チューリッヒのリートベルグ美術館において、特別展「長谷川等伯展」が開催されました。



「長谷川等伯展」(リートベルグ美術館)パンフレット表紙

リートベルグ美術館では、日本の美術および文化を紹介する事業の一環として、平成五年に特別展「禅」が開催され、大変な好評を得ました。この「等伯展」はそれに続くもので、桃山時代の巨匠・長谷川等伯の秀作を一堂に展覧し、その画業を通して日本の美術及び文化を、さらにヨーロッパの人々に広く伝えるために企画されました。しかし、その裏側には、等伯に魅せられ「絶対に、スイスの人たちにも等伯の素晴らしい作品を見てほしい。」と強い意志と情熱を持って説得し続けた担当者の熱意があったのです。

担当者のカタリーナ・エツプレヒト女史が、等伯の郷里にあるこの七尾美術館を訪れたのは、平成十年の九月のことでした。等伯研究で知られる

故山根有三氏が理事を務められていた出光美術館に、調査・研究のため来日されているとの事で、ちょうど当館の「長谷川等伯展」仏画から水墨画まで「にあわせて来館されたのです。

彼女は、何時間も展示室で作品と向かい合い、私たちは等伯についての様々な事について話しました。はじめて会ったにもかかわらず、お互いにとても共感する何かを感じ取り、時間が許す限り話し続けました。その時、彼女の大変な夢を始めで聞かされたのです。

それは、言つまでもなく彼女が在籍するリートベルグ美術館での「等伯展」の企画でした。その内容たるや大変なもので、わが国における水墨画の頂点、国宝「松林図屏風」(東京国立博物館蔵)から、殆どの重要文化財が含まれていました。実のところ、その時の正直な感想は、「これはとても無理ではないか…」でした。しかし、彼女の熱意は大変なもので、彼女の中には微塵も「無理」という言葉はなく、私も最後には「彼女なら出来るかも知れない。」と思ひ直し、実現する事を心から祈りました。しかし、やはり現実には厳しく、まず競争たる文化財を出品するには国の協力なくしては不可能で、更に大変な経費を補助してくれるスポンサーも見つけなければなりません。目の前の現状を見れば、ほとんどの日本人は諦めてしまつてしまう。でも、彼女は益々積極的に足を運び、交渉していったのです。そして、いよいよ平成十二年には実現化が見えてきました。主催はリートベルグ美術館・東京国立博物館・京都国立博物館・国際交流基金に決定し、正式な出品依頼が来たのです。

展覧会は二部によって構成され、第一部では等伯の若年期に焦点をあて、仏画と肖像画を描く画家から、襖や屏風に水墨山水を描く画家へと転身を遂げるさまを示し、第二部では等伯の水墨画によって、閑寂な空間を構成し、寺院の内部空間の



「長谷川等伯展」(リートベルグ美術館)展示室風景

雰囲気をも汲み取つてもらおうというものでした。当館からは寄託作品の「海棠に雀図」(安来家蔵)、他に石川県から「十二天図」(正覚院蔵)と「十六羅漢図」(霊泉寺蔵)が第一部に出品されました。会期中、ヨーロッパの各地から、またアメリカからも研究者や日本美術愛好家が訪れ、今までにない大盛況の内に展覧会は終了しました。彼女は、この等伯研究において論文を発表し、博士号を修得しました。

等伯の郷里にある七尾美術館としては、本当にうれしい出来事でした。また、ちよっぴりうらやましくもありますが、彼女の努力と熱意を見習つて、私も頑張つていきたいと思ひます。

と、展覧会報告は終わるわけですが、実はここからまだ続きがあるのです。展覧会が終了して落ち着いた頃、エツプレヒト女史から国際電話がは

いったのです。内容は、等伯展を鑑賞したリートベルグ美術館友の会の方々がとても感動し、是非等伯が生まれ育った地、活躍した場所を訪れたいとの事で、十一月に日本へ、そしてこの七尾へ来られるとの事でした。思わず「えーっ本当？」と叫んでしまいました。と言つのも、当然私たちもリートベルグ美術館で「等伯展」を見たかったのですが、いざ行くとなると様々な理由から難しく行くことが出来なかつたからです。ところが、リートベルグ友の会の方々に参加を呼びかけたところ、定員の二十名に対してほぼ倍の応募があつたそうです。皆さんの熱心さには、本当に驚かされます。

一行は、京都で本法寺などを訪問された後、十一月十六日のお昼過ぎに七尾へ到着しました。そのままバスに乗り換え、等伯の生家・奥村家の菩提寺である本延寺を訪問しました。本延寺では、お茶席を用意して皆さんを迎えて下さいました。正座に慣れない方もいらつしやいましたが、「もう一服いかがですか？」の問いに数人の方が手を揚げられ、楽しい時間を過ごされました。その後、ご住職の案内で信春(等伯)彩色の「日蓮聖人像」と、長谷川等誉筆の「涅槃図」を拝見、お話しを興味深くお聞きした後お礼を申し上げ、一行は七尾美術館へ移動しました。

美術館では、調査・研究の一環として信春筆「達磨図」(龍門寺蔵)と「愛宕権現図」を特別閲覧し、エップレヒト女史の説明に聞き入りました。友の会の方々からは、等伯作品の表面的なことよりも、精神性における質問や意見が多く出され、その認識の高さに感心しました。

また、等伯会のご好意で全員に「達磨図」の色紙がプレゼントされ、等伯のオリジナルハイビジョン番組を鑑賞した後、一行は別れを惜しんで輪島へと向かわれました。

その後も、輪島塗の見学、羽咋の妙成寺様のお

計らいで、信春三十歳筆の「涅槃図」を鑑賞後、等伯の代表作・国宝「松林図屏風」の風景と言われる松林を見ながら金沢へ移動、修復工房などを見学の後、石川県を出て東京へ向かわれました。



リートベルグ美術館の担当学芸員・カテリーナ・エップレヒト女史の解説に聞き入る友の会の御一行様

近年、等伯への注目は目覚しく、連日のようにTVや新聞・雑誌で特集されています。この七尾に生まれ育った、桃山時代の巨匠「長谷川等伯」この先も、わが国を代表する画家から、世界の人々が知る等伯へと益々の飛躍を期待したいと思います。

第三回 石川県七尾美術館

「友の会鑑賞の旅」のご案内

参加者大募集!

いよいよ春ですね。なんだか、「どこかへ行ってみたい!」気分ではありませんか?そこで、友の会会員の皆様お待ちかね(?)「友の会鑑賞の旅」のお知らせです。

今年、この四月に新しく開館の「石川県加賀九谷焼美術館」を中心に加賀方面を予定しています。加賀市は美術館・博物館施設が充実しており、楽しい旅行になりそうです。皆様からのお申込みをお待ちしております!

日 程 六月十六日(日)

見学予定地 石川県加賀九谷焼美術館

ほか加賀方面

参加費 五、〇〇〇円

(友の会会員以外の方は六、〇〇〇円)

募集定員 先着四十五名

(対象は原則として成人)

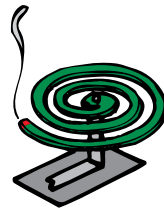
お申込み方法

参加ご希望の方は、五月一日(水)以降に参加費を添えて当館受付までお越しください





夏の展覧会予定



第1・2展示室

第17回海の祭典「夏の選抜展」

池田コレクションを中心に ・ 静と動の表現

7月6日(土)～8月18日(日)

恒例の夏期所蔵品展です。今回は「池田コレクションを中心に」
「静と動の表現」の2テーマで、当館の所蔵品を中心に各ジャンルの
作品を展示・紹介します。



「鯉図」福田平八郎

第1・2展示室

長谷川等伯シリーズ「長谷川等伯展」

- 妙蓮寺の長谷川派と若き日の等伯 -

8月24日(土)～9月23日(月・祝)

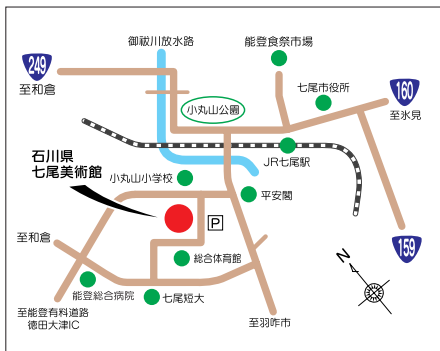
当館では、桃山時代に京都で活躍した画人・長谷川等伯の郷里に
ある美術館として、平成8年度より毎年「長谷川等伯シリーズ」展
を開催しています。

等伯は晩年、長谷川一派を率いて大寺院内障屏画などを手掛けて
おり、等伯を語る時には長谷川派全体を見ることも重要といえます。

そこで本年は、去年に引き続き一派による寺院内障屏画を、また、
今年の干支にちなんで「馬」を描いた若き日の等伯作品などを紹介
します。



「牧馬図障屏風」長谷川信春(等伯)
6曲1双(内右隻部分)東京国立博物館蔵



交通案内

車.....金沢より能登有料道路
利用約1時間30分

タクシー...JR七尾駅より約5分

徒歩.....JR七尾駅より約20分

市内循環バス...JR七尾駅より西回りに
(まりん号) 乗車約6分

休館日のお知らせ

(4月～6月)

4月 1、8、15～25

5月 無休

6月 3～6、10、17、24

次号・第30号(夏号)は7月6日発行予定です。